

| | | | | | |
|--------------|---|--|-------------|------------------------|----------|
| 科目区分 | 専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康 | | | 聴講 | 可 |
| 授業科目名 | 「環境と健康」概論 | | 科目履修 | 可 | 単位互換 |
| 科目番号 | N01002 | クラス番号 | C1 (学部合同) | | |
| 授業形式 | 講義 | 必修選択区分 | 必修 | | |
| 開講時期 | 1年次 前期 Semester | 単 位 | 2 単位 | 30 時間 | |
| 科目責任者 | 石川良樹 | そ の 他 | R01005 と同科目 | | |
| 担当教員 | 石川良樹、山下暢子、巴山玉蓮、松田安弘 | | | | |
| 授業の概要 | 健康とは、人間が日常生活において自らの能力を最大限に発揮している動的状態を指す。また、健康の状態は、人間が受胎し、死に至るまで様々に変動し、疾病と対極にあるものではない。さらに人間を取り巻く環境には、社会・文化・自然的環境である外的環境、生体の内部環境を意味する内的環境がある。この授業においては、環境・健康の概念、人間の身体的、心理的、社会的側面の環境の特徴、並びに環境と健康との関係を学ぶ。また、この学習を通して日常生活の中でよりよい健康状態を実現するための環境の重要性を学ぶ。 | | | | |
| 学科目的 学科目標 | 目的：日常生活の中でよりよい健康状態を実現するために、環境の重要性を認識する。 目標：1 「健康」と「環境」の概念を理解する。 2 外的環境が健康に及ぼす影響を理解する。 3 内的環境が健康に及ぼす影響を理解する。 | | | | |
| 授業の内容と方法 | 回 | 授業内容 | 授業 形態 | 事前・事後学習 (学習課題) | 担当 |
| | 1 | 4/9 「環境と健康」科目のカリキュラム上の位置づけ ・「環境と健康」科目の目標 ・「健康」「環境」の本学における用語の定義 ・「内的環境」と「外的環境」 | 講義 | 必要に応じて 授業で提示す る。 | 石川 山下 |
| | 2 | 4/16 健康概念の動向 ・健康観の変遷 ・世界保健機関 (WHO) による健康の定義と活動 | | | 山下 |
| | 3 | 4/30 外的環境と健康 ・地球環境と人類の歴史 | | | 石川 |
| | 4 | 5/7 ・環境と感染症の歴史的変遷 | | | |
| | 5 | 5/14 ・科学技術の発達と生命活動 | | | |
| | 6 | 5/21 ・社会的環境と健康 | | | 巴山 |
| | 7 | 5/28 ・社会経済状況と健康 | | | |
| | 8 | 6/4 内的環境と健康 ・外界から情報を取り入れ、運動をおこす (感覚器系・運動器系・神経系) ① | | | 松田 |
| | 9 | 6/11 ・外界から情報を取り入れ、運動をおこす② | | | |
| | 10 | 6/18 ・外界から情報を取り入れ、運動をおこす③ | | | |
| | 11 | 6/25 ・栄養素を取り込み、老廃物を排泄する (消化器系 泌尿器系) ① | | | |
| | 12 | 7/2 ・栄養素を取り込み、老廃物を排泄する② | | | |
| | 13 | 7/9 ・栄養素を取り込み、老廃物を排泄する③ | | | |
| | 14 | 7/16 ・ガス交換をおこない、全身に酸素を供給する① (呼吸器系・循環器系) | | | |
| | 15 | 7/30 ・ガス交換をおこない、全身に酸素を供給する② | | | |
| 評価方法 | レポート (1 から 7 回)、試験 (8 から 15 回) の担当コマ数による加重平均 | | | | |
| 教科書 | 指定なし | | | | |
| 参考書 参考文献等 | 「看護における健康の概念」都留春雄他訳 医学書院 環境学入門 第8巻「環境と健康」 森田昌敏、高野裕久著 岩波書店 | | | | |
| 備考 | 特になし | | | | |